

吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策（堤防整備）

○戦後最大流量を記録した平成16年10月台風23号による深刻な浸水被害（床上浸水6戸、床下浸水36戸）を踏まえ、加茂第二地区で堤防整備を実施。

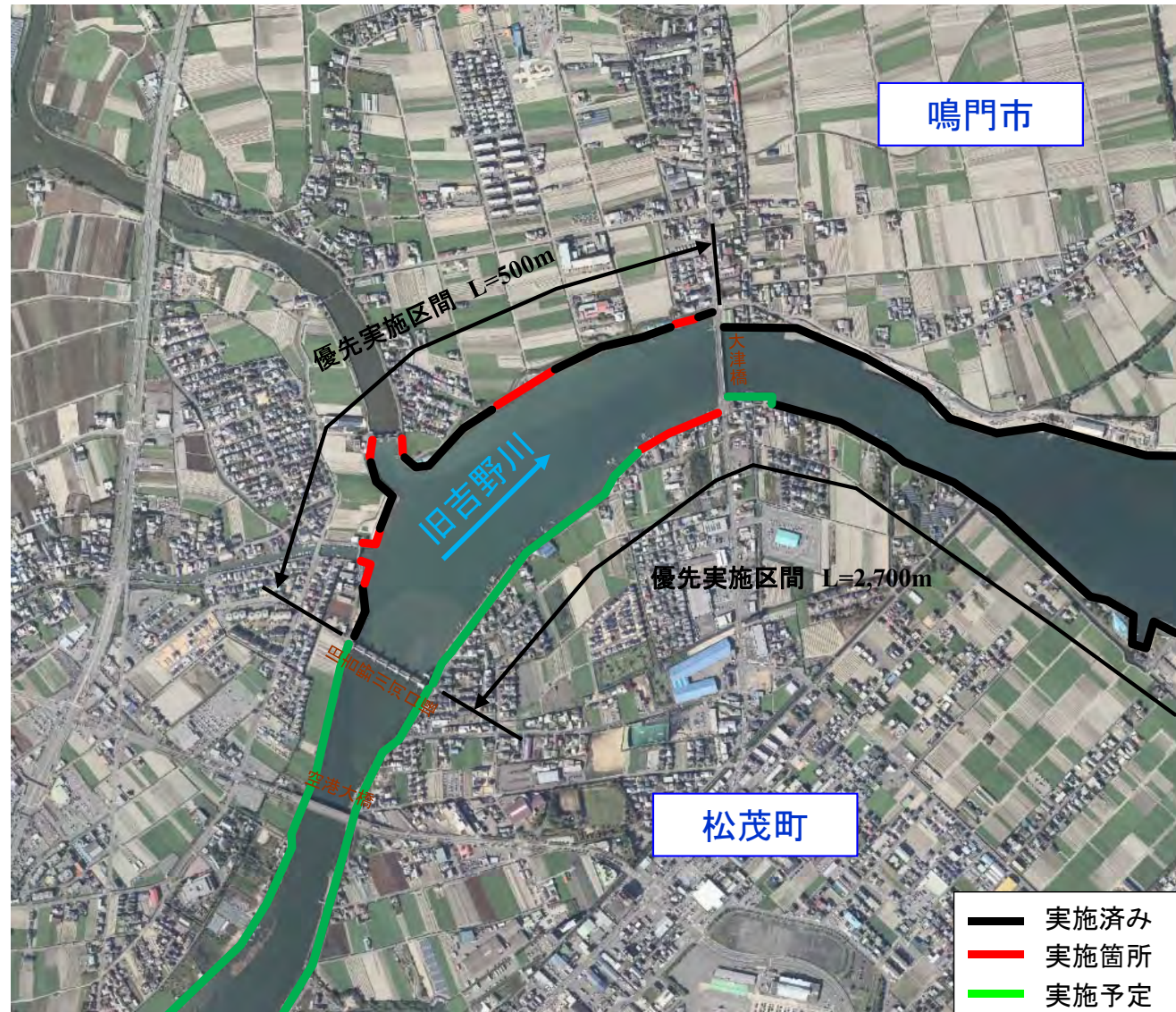


吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(地震津波対策)

○四国地方では、今後30年以内に70～80%程度の確率で南海トラフ地震の発生が予想されているため、旧吉野川において、地震・津波による被害の軽減を図ることを目的として、地震津波対策を実施する。



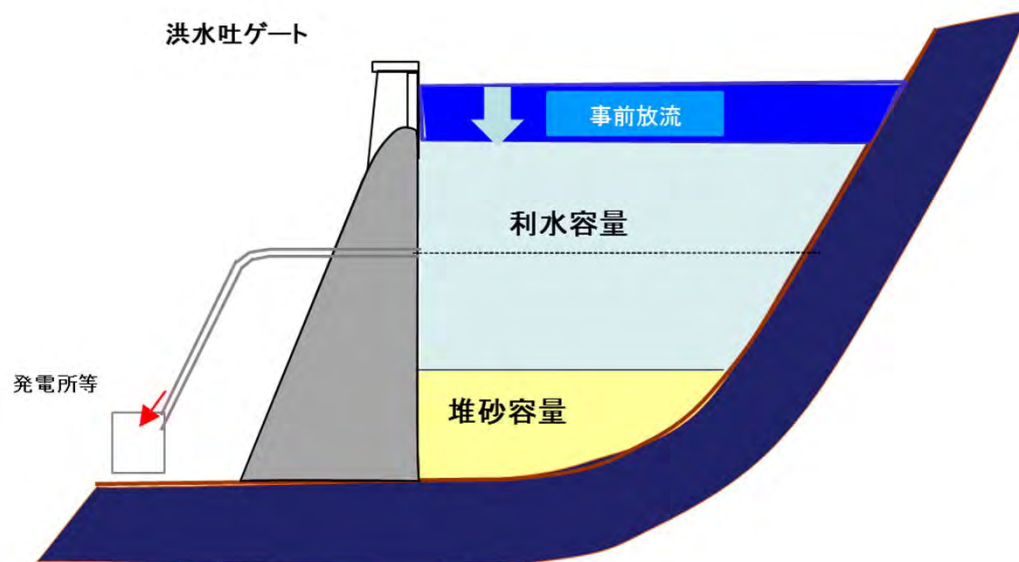
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策（事前放流の実施）

- 令和元年東日本台風（台風第19号）など近年頻発する洪水被害に対応するため、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう全国で取組みを実施。
- 利水ダムは、台風や大雨が降ることが見込まれる場合に事前に利水容量を空け、洪水調節に使用。
- 河川管理者は、台風や大雨に関する全般気象情報が発表されたとき等に利水ダム管理者に事前放流を実施する態勢に入るよう伝達し、利水ダム管理者は事前放流を実施するかを判断。
- 吉野川で利水容量を洪水調節に利用できるダムは、16ダム。
- 利水16ダムの利水容量を洪水調節に全量利用できれば、既存ダムの洪水調節容量(12,045万m³)と併せて約1.7倍(20,751万m³)の洪水調節可能容量が確保でき、吉野川の洪水被害軽減に期待される。
- 利水容量を洪水調節に利用できるよう、令和2年5月29日に「吉野川水系治水協定」締結。

利水ダムの事前放流のイメージ



利水ダムの洪水調整可能容量

ダム	洪水調節容量 (万m ³)	洪水調節可能 容量※(万m ³)	基準降雨量 (mm)
柳瀬ダム	760	440	174
池田ダム	440	0	—
早明浦ダム	9,000	2,334	265
富郷ダム	1,250	375	181
新宮ダム	500	107	163
宮川内ダム	95	23	194
三縄ダム		35	148
名頃ダム		45	148
若宮谷ダム		5	148
松尾川ダム		514	148
大橋ダム		453	178
長沢ダム		997	178
大森川ダム		859	178
穴内川ダム		1,774	148
稲村ダム		513	178
汗見ダム		0	—
別子ダム		229	181
夏子ダム		3	87

※水利用への補給を行う可能性が低い期間等において水位を低下させた状態とする貯水池運用を行うことにより確保可能な容量を含む

吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

四国山地砂防事務所の取り組み

- 直轄砂防事業として砂防堰堤等を整備し、土砂及び流木の流下を抑制する。
- 直轄地すべり対策事業として抑制工等を実施し、地すべりによる被害の防止又は軽減を図る。

①砂防堰堤の新設（不透過型）



- ・不透過型の砂防堰堤は、大雨で山地から土砂が流出した時に、洪水と一緒に砂防堰堤へ流れ込む大きな岩や砂礫、流木などを貯めることにより、堰堤下流の土砂災害を防ぐ。

②砂防堰堤の新設（透過型）



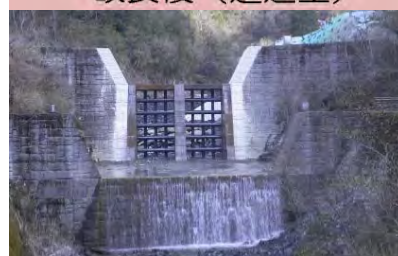
- ・透過型の砂防堰堤は、平常時は堰堤がない状態と同じように、川の水が砂防堰堤を通過する。
- ・洪水時は、大きな岩や流木を含む土砂は堰堤に設置したスリットで捕捉することで、堰堤下流の土砂災害を防ぐ。

③砂防堰堤の改良

改良前（不透過型）



改良後（透過型）



- ・砂防堰堤の改良は、既設の不透過型堰堤を切削して鋼製スリットを設置することにより、透過型堰堤と同様の機能を有する堰堤に改良する。
- ・透過型堰堤に改良することにより、改良前よりも多くの土砂や流木を貯めるポケットを増やすことができる。

④地すべり対策

抑制工の模式図



＜地下水排除工＞
地すべり土塊内の地下水を地域外へ効率的に排水するために、集水井と集水・横ボーリングを設置する。

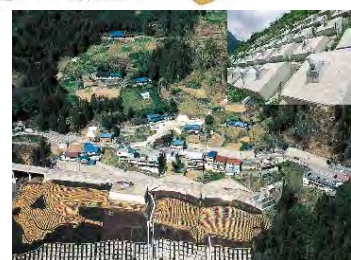


抑止工の模式図



＜アンカー工＞

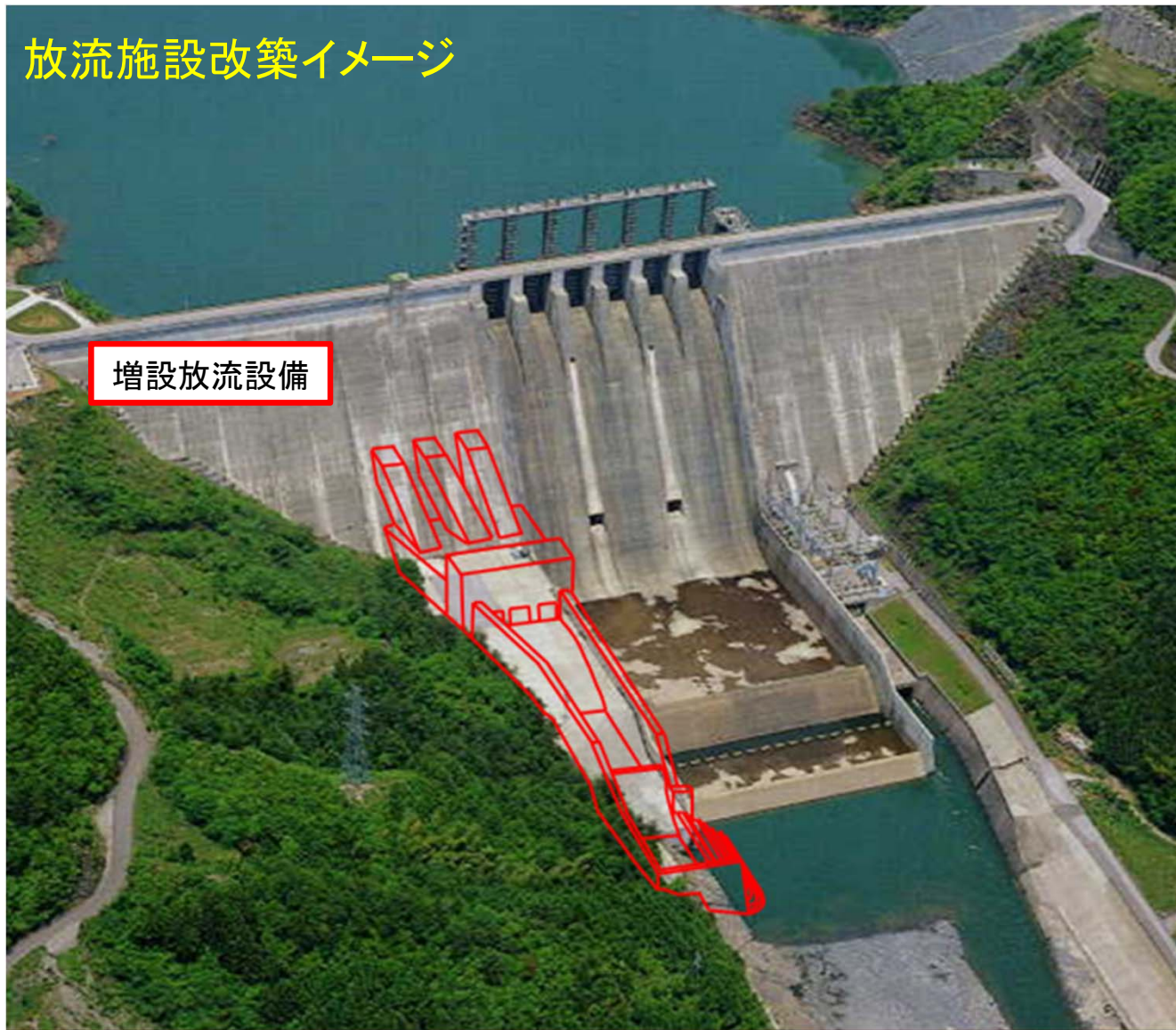
構造物が有する破壊に対する抵抗力によって地すべり活動を抑止するため、移動層を貫通した鋼材等を不動基盤に定着させる。



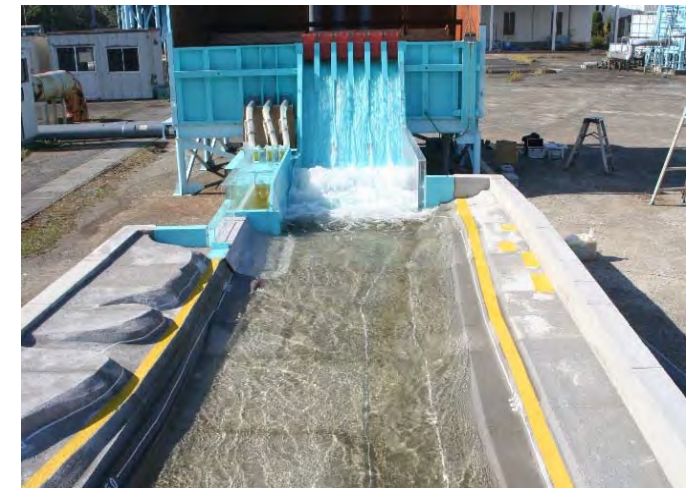
早明浦ダム再生について(水資源機構)

○早明浦ダム再生事業は、ダムの治水機能の向上を目的に平成30年度より着手。

放流施設改築イメージ



水理模型実験状況



全体模型 (縮尺1/62.5)



放流設備 抽出模型 (縮尺1/32)

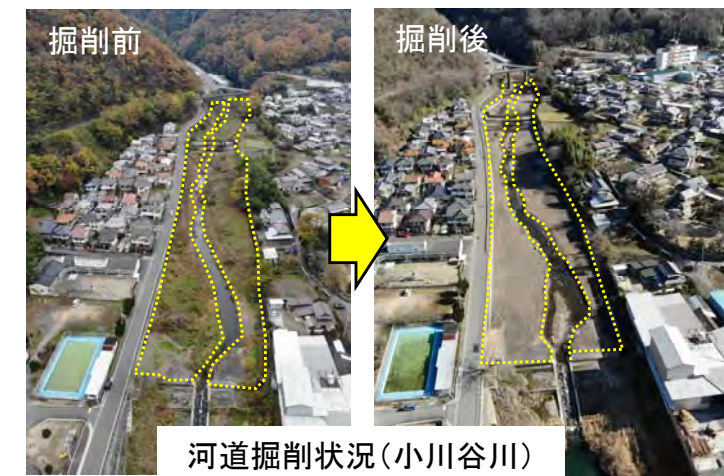
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

徳島県における取り組み

○「流域治水」の考えの下、河川区域での堤防整備をはじめ、集水域・氾濫域での氾濫防止策及び被害軽減策による水災害対策を全面展開します。

● 洪水水位を下げる河道掘削【河川区域】



● 洪水を貯め込むダム事前放流【河川区域】



● 切迫感ある映像を発信する監視カメラ【河川区域】



● 土砂流出を抑制する砂防ダム【集水域】



● 洪水調節機能を発揮するため池整備【集水域】



● 浸水に対応した排水機場の耐水化【氾濫域】



吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

森林の整備・保全について(徳島県、四国森林管理局、森林整備センター)

○山地災害や洪水被害が頻発化・激甚化する中、森林の有する水源涵養機能や土砂流出防止機能等の適切な発揮にも資するよう、造林・間伐や治山事業など森林の整備・保全を推進する。



水源林の整備(針広混交林)



森林整備(間伐実施後)



森林整備のための路網整備
(林道楠根地中ノ郷線: 吉野川市)

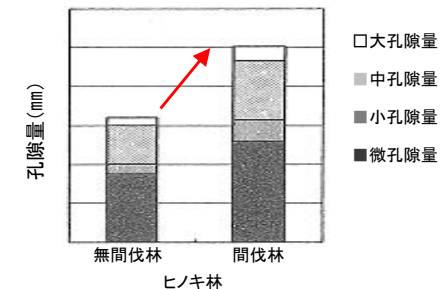
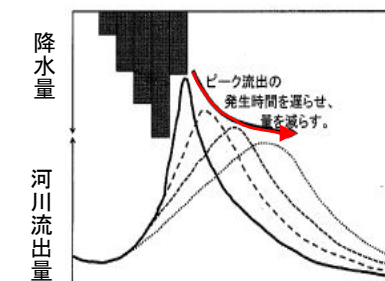


森林の維持造成に必要な治山事業
(流木捕捉式治山ダム: 吉野川市)

(参考) 森林整備による浸透能の向上効果

森林土壌によりピーク流出量は減少

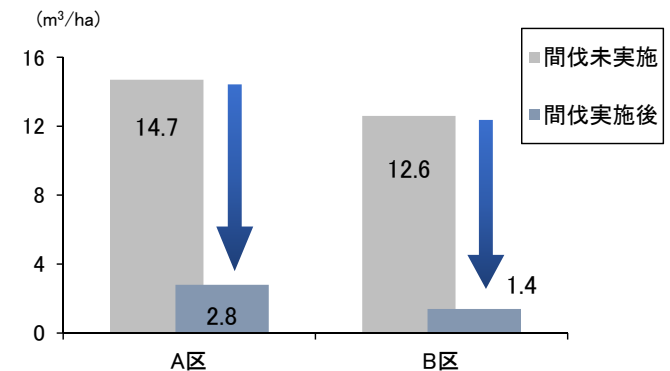
間伐の実施で森林土壌の孔隙量が増加



※玉井幸治「森林の持つ洪水災害の軽減機能」について」山林第1635号(2020)

※服部ら「間伐林と無間伐林の保水容量の比較(2001)」

流出する土砂量が減少



※恩田裕一編(2008)人工林荒廃と水・土砂流出の実態
※土砂量: 2006年6月～11月の6ヶ月間、総雨量: 1,048mm

森林の整備・保全について(徳島県、四国森林管理局、森林整備センター)

○山地災害や洪水被害が頻発化・激甚化する中、森林の有する水源涵養機能や土砂流出防止機能等の適切な発揮にも資するよう、造林・間伐や治山事業など森林の整備・保全を推進する。



水源林の整備(針広混交林)



森林整備(間伐実施後)



森林整備のための路網整備
(林道川崎国見山線: 三好市)

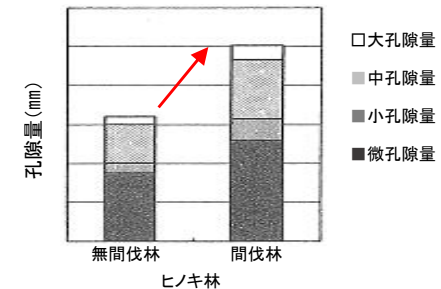
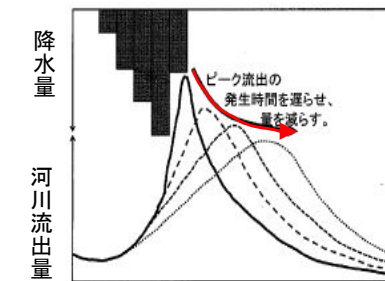


森林の維持造成に必要な治山事業
(山腹工: 美馬市)

(参考)森林整備による浸透能の向上効果

森林土壌によりピーク流出量は減少

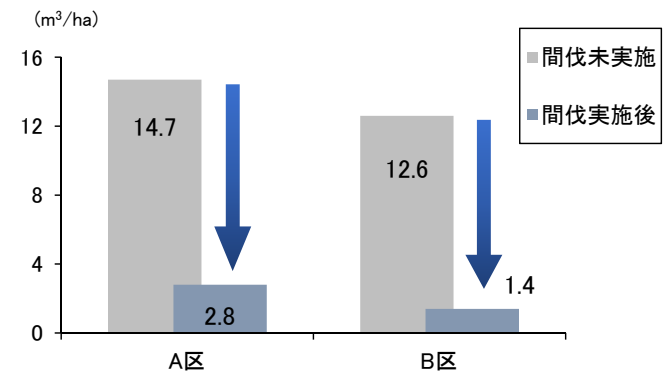
間伐の実施で森林土壌の孔隙量が増加



※玉井幸治「森林の持つ洪水災害の軽減機能」について」山林第1635号(2020)

※服部「間伐林と無間伐林の保水容量の比較(2001)」

流出する土砂量が減少



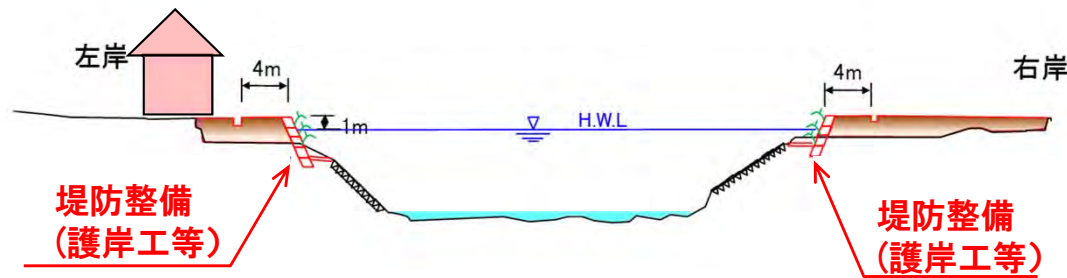
※恩田裕一編(2008)人工林荒廃と水・土砂流出の実態
※土砂量: 2006年6月～11月の6ヶ月間、総雨量: 1,048mm

高知県における取り組み

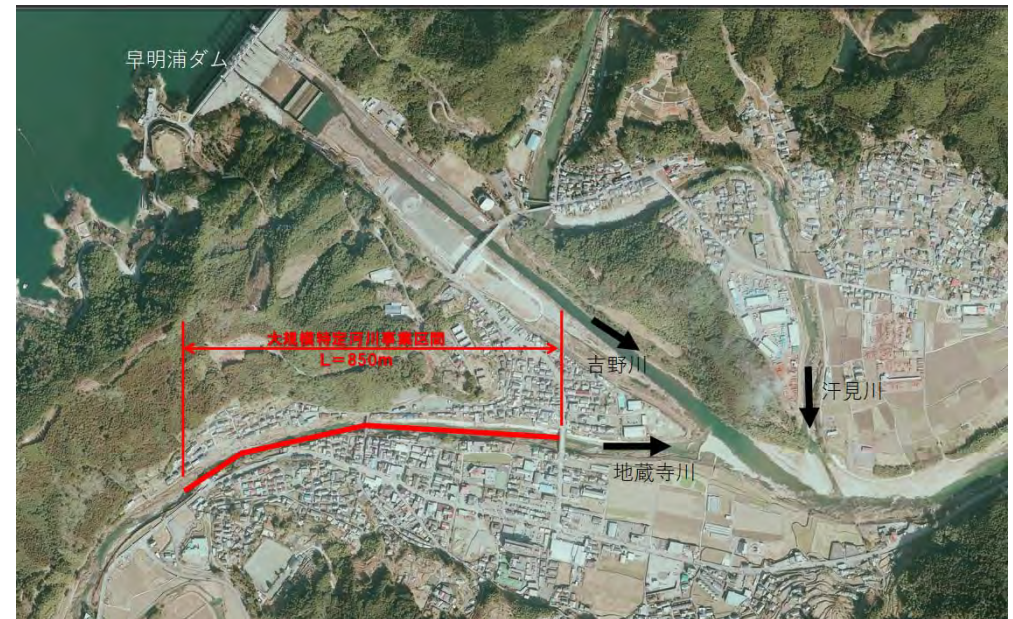
- 高知県では、地蔵寺川・汗見川等の河川整備を実施。
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、砂防関係施設の整備を実施。

堤防整備（地蔵寺川大規模特定河川事業）

地蔵寺川では、整備が必要な区間のうち、事業効果早期発現の観点から、現況流下能力が低い県道土佐中島橋から町道樺橋までのL=850m区間を大規模事業区間として設定し、整備を進めていく。



地蔵寺川の整備イメージ



砂防関係施設の整備

砂防関係施設の整備等により、土砂や流木の流出を抑止・抑制する。

【砂防事業】



【急傾斜地崩壊対策事業】



【地すべり対策事業】



吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

森林の整備・保全について(高知県、林野庁、森林整備センター)

- 吉野川流域市町村には、民有林8.7万ha、国有林2.3万ha、計11.0万ha(うち人工林7.5万ha)の森林(流域市町村の土地面積の約89%)が存在。
- これまでの5年間に、植林や間伐などの森林整備事業を5,399ha、溪間工60箇所、山腹工11.08haの治山事業を実施。
- 森林は山地災害防止機能や水源かん養機能等の公益的機能を有しており、この機能の適切な発揮に向け森林整備・保全の実施が重要。

吉野川流域の森林の整備・保全に向け、関係機関と連携し森林整備及び治山事業を計画的に実施し、樹木の生長や下層植生の繁茂を促し森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。

I 森林の有する機能について

1. 持続可能な森林経営

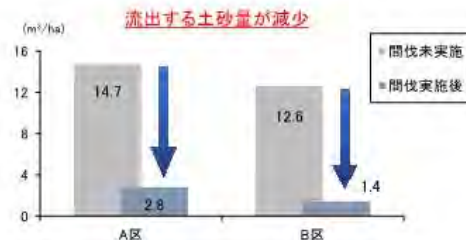
森林の持つ多面的機能を将来にわたって発揮させていくためには、適切な森林の経営管理により、豊かな人工林資源を「伐って、使って、植える」という形の循環利用が必要。



※ 出典：林野庁ホームページ

2. 森林施業による土砂流出抑制効果等

森林整備により下層植生を繁茂させ、降雨に伴う土壌流出を抑制。



※ 出典：林政審議会(林野庁)資料

III 森林の整備・保全

植林



間伐



(実施前)

(実施後)

水源林の整備



針広混交林



育成複層林

治山事業



溪間工

II これまでの実施状況(過去5年間の実績)

(単位: ha、溪間工は箇所)

	H27	H28	H29	H30	R元	計
森林整備事業	1,284	1,385	813	1,063	854	5,399
治山事業						
溪間工	12	11	8	12	17	60
山腹工	3.49	2.87	1.29	1.13	2.30	11.08

※ 高知県の森林・林業・木材産業及び四国森林管理局業務資料より

※ 吉野川流域に係る高知県の市町村内の実績を計上

◆森林の整備・保全を行う機関と事業◆

林野庁 四国森林管理局：森林整備事業、治山事業

(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター 高知水源林整備事務所：水源林造成事業

高知県：造林事業、木材安定供給推進事業、緊急間伐総合支援事業、山地治山事業、水源地域等保安林

整備事業、山地防災事業等

市町村：森林環境譲与税を活用する事業等

徳島市における取り組み

- 都市下水路、公共下水道(雨水)及び川内地区排水施設の整備を実施し、浸水区域の解消や浸水被害の軽減を図る。
- 南沖洲地区の雨水貯留施設は、令和3年度から整備を実施する。
- 徳島市流域治水検討会議で関係部局と連携体制を構築し、本市の流域治水対策を検討する。



水路整備



雨水ポンプ増設

田宮西都市下水路整備



川内地区排水施設整備



南沖洲地区雨水貯留施設整備

鳴門市における取り組み

○鳴門市では、新庁舎を防災対策拠点として、大地震や大津波等によって損傷を受けたり、機能を損失することなく、行政機能を維持できる安全な庁舎を新たに建設します。

○排水機場の耐水化として、出入口の高所化、窓・扉・搬入開口の閉塞化及び防水扉の設置により内部への浸水を防ぎ、ポンプ場の機能の確保を目的としています。

庁舎の耐水化(北西側外観イメージ)



排水機場の耐水化



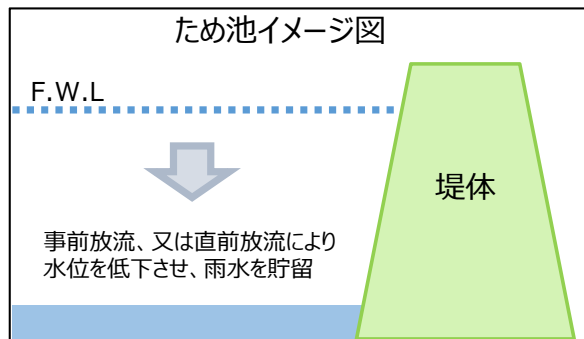
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

吉野川市における取り組み

○吉野川市では、吉野川の内水河川である飯尾川の上流域における内水氾濫軽減のため、周辺の農業用ため池において事前放流及び直前放流を実施し、雨水貯留施設として洪水調節を図る。

○今後は、立地適正化計画(防災指針)の作成、調整池の整備や吉野川市水害に強いまちづくり条例の適用区域拡大等の検討を進め、ソフト・ハード両面から飯尾川及びその支川の内水氾濫対策を進めていく。



事前放流 = 利水時期終了後に、計画放流を実施して一定水位まで下げておくこと。

直前放流 = 台風などが接近する直前に緊急放流を実施して水位を最大限低下させるもの。

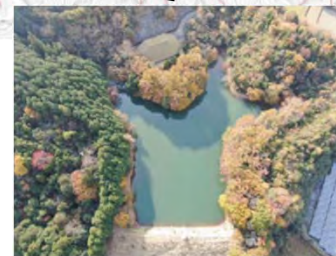


大正池及び古池

塚池
(改修中)



古志田池



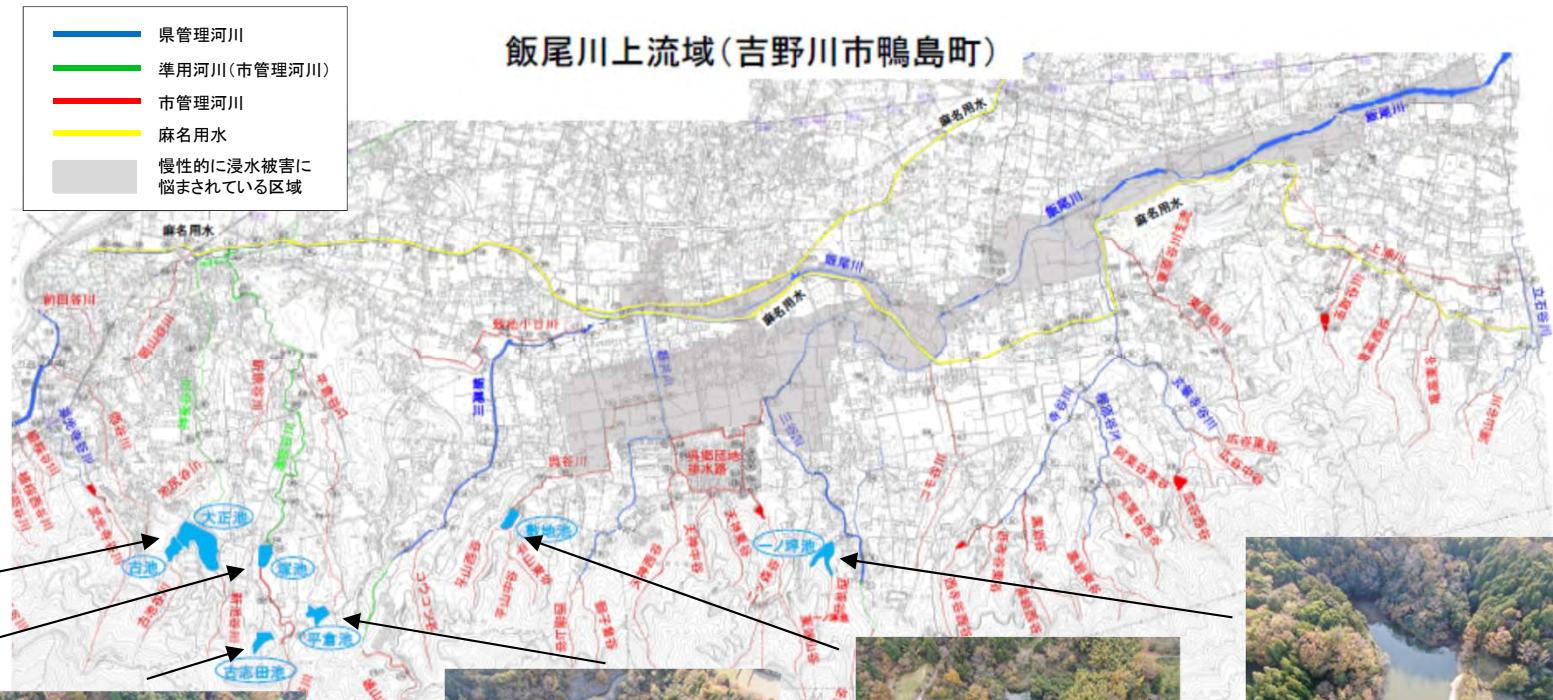
平倉池



敷地池



一ノ坪池



阿波市における取り組み

○吉野川下流域で唯一未整備(無堤)の阿波町勝命箇所における「谷島地区」及び「伊沢市地区」の築堤工事を平成24年度より市と国土交通省が連携し、事業実施。「谷島地区」上流域の築堤は、工事着手から3年間で完成。

○平成27年『阿波市災害危険区域に関する条例』を施行し、九栗谷川より下流の一部区間を災害危険区域に指定し、建築物の制限を行い出水による災害の発生を防止する。



石井町における取り組み

- 石井町では、石井CATVが保有する112チャンネルを町のチャンネルとして活用し、大雨時の河川の状況を撮影したライブカメラ映像や災害時の避難所開設情報等を発信できる「石井町地域情報チャンネル」を構築する。
- 今後は、令和2年度に改訂を行ったハザードマップの周知やマイ・タイムライン作成の促進等を進めていく。

行政と住民をつなぐ情報チャンネルの構築

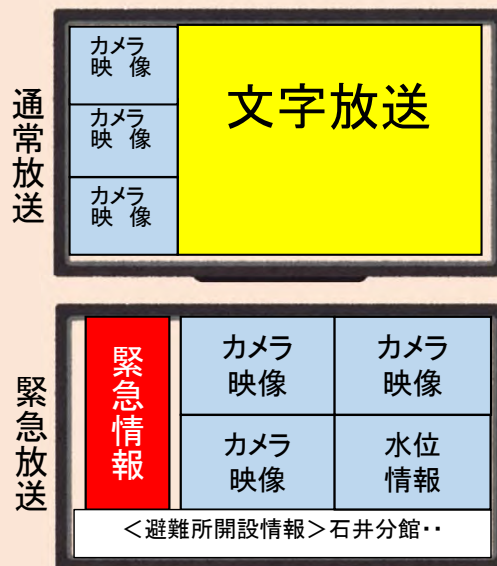
放送する
内 容

- 行政情報（文字放送）の発信
 - 台風・大雨時の河川の状況を撮影したライブカメラ映像
 - 防災無線放送の音声情報
 - 災害時の避難所開設等の緊急情報
- など

【石井町役場】

- ・文字放送
- ・ライブカメラの映像を配信
- ・防災無線放送の音声情報
- ・避難所開設等の緊急情報

【住 民】



【石井CATV】

緊急文字放送システム



【バイパス沿いに設置するカメラから撮影される映像。渋滞や冠水の状況を確認。】

松茂町における取り組み

○松茂町では、台風や大雨が予測されれば、数日前から用水樋門を閉じ、干潮時の自然排水あるいはポンプ場での強制排水により、水路内の水位を下げて遊水池を確保し、内水氾濫の防止に努めている。

○農業用水路については、中喜来・伊沢裏排水機場の県営ストックマネジメント事業が完了しており、引き続き豊岡排水機場の改修実施予定。都市下水路についても各ポンプ場で下水道ストックマネジメント事業を進めていく予定である。

主な排水施設の分布図

中喜来排水機場
(農業用水路)

伊沢裏排水機場
(農業用水路)

喜来排水機場
(農業用水路)

豊久排水機場
(その他)

広島ポンプ場
(都市下水路)

豊岡排水機場
(農業用水路)

笹木野ポンプ場
(都市下水路)

長原ポンプ場
(都市下水路)

事前排水状況



北島町における取り組み

○北島町では、大規模水害時の浸水継続時間の短縮を図れるよう、令和3年度に老門排水機場の耐水化計画を策定。

○建築壁やシャッターの水密化、排気口の高所化等、既存設備の改修や活用を大前提に、耐水化に係る対策方法を検討予定。

老門排水機場 外観



老門排水機場 内観



吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

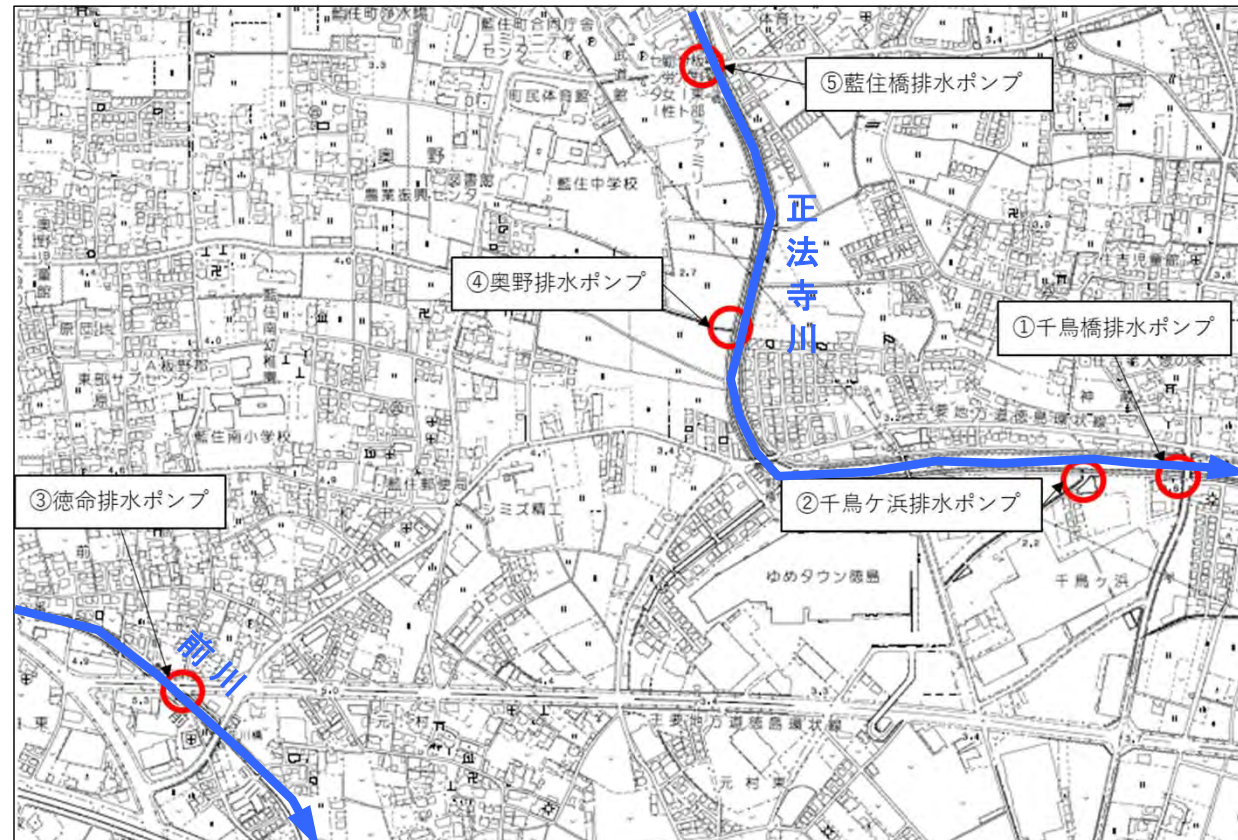
藍住町における取り組み

- 藍住町では、浸水被害の軽減を図るため、既設排水路から正法寺川や前川へ強制排水するためのポンプ設備の整備、また、既設排水路の改良等を実施しています。
- 今後は、公共下水道供用開始済み区域のみで実施している浄化槽の雨水貯留施設への転用補助に加え、各家庭における雨水貯留槽設置に対する補助制度の新設を検討し、雨水の流出抑制を図ります。

平成30年度実施



奥野排水ポンプ設置状況
(フラップゲート閉時に作動)

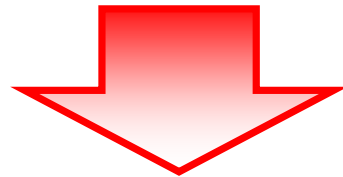


排水ポンプ設置箇所図(5箇所)

板野町における取り組み

現 状

- 板野町では、平成16年の台風23号及び平成23年の台風15号で板野町大寺地区（大寺橋上流左岸）において浸水被害が発生したが、その後は大きな浸水被害はなく、近年の全国的なゲリラ豪雨等でも浸水被害は起こっておらず、町管理の準用河川周辺においては過去浸水被害は起こっていない。
- 過去の浸水被害の多くは氾濫型の内水氾濫ではなく、湛水型の内水氾濫によるもの。



対 策

- 本町における浸水被害の要因は堤防の高さ不足と下流の水位上昇によるものであり、堤防の嵩上げや、浚渫等はすでに国及び県において対策を講じていただいているところであるが、今後も被害想定区域において、要望等で協力をお願いしていく。
- 近年、旧吉野川近辺の農地が宅地転用され、マンションや企業等の開発が進んでいるため、農地転用許可申請時の審査段階並びに開発許可申請時の審査段階にて、内水被害の観点から造成時の盛土等について、申請者に指導していく。

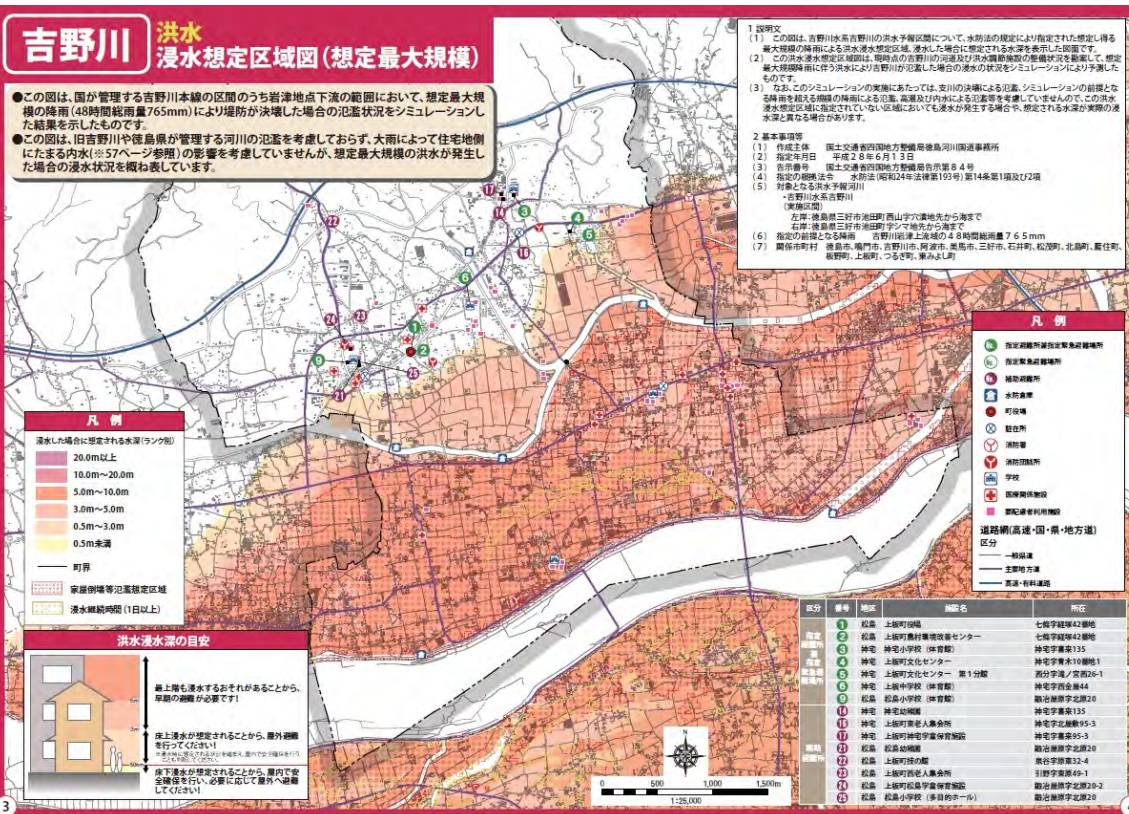
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

上板町における取り組み

○上板町では、町地域防災計画に名称、所在地の記載をした要配慮者利用施設のうち、避難確保計画が未作成の施設に対し、避難確保計画作成の個別相談を令和3年1月に実施。

○今後は、避難確保計画等担当者会を通じて、要配慮者利用施設の防災担当者と顔の見える関係の構築と、防災・減災に資する内容の情報提供や意見交換を行う。



神山町における取り組み

○神山町では、平成30年度末に森林の将来あるべき姿について定めた「森林ビジョン」を策定した。

○森林の持つ水源涵養機能の維持、増進を図るため、町が所有、又は関係する植栽して50年以上の森林(分収林)において更新伐等を行い、源流域では広葉樹の植栽を行ってきた。



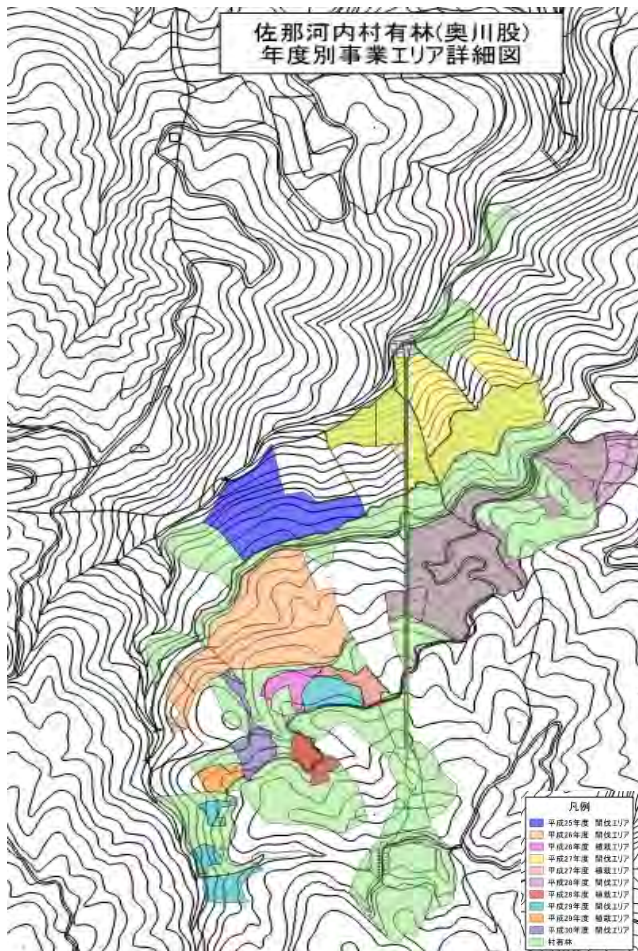
間伐の推進(令和2年度実施)



更新伐跡地に広葉樹の植栽(令和2年度実施)

佐那河内村における取り組み

- 佐那河内村では、とくしま豊かな森づくり事業で、山林の水源涵養機能により災害を防止するため村有林化を促進し、間伐事業と植栽事業を行いつつ、村有林の公的森林管理を行っている。
- 今後は、森林整備計画で定めたエリアごとに持続的かつ安定的な公的森林管理を行い、天然生林については、原則として拡大造林は行わず、豪雨等による災害発生を防止すべく適正な保護に努める。



美馬市における取り組み

- 美馬市では、令和2年度に排水ポンプ車を導入し、管内における河川氾濫に機動的に対処できる体制づくりを進めている。
- また、夏子ダム(農業用ダム)における、時期ごとの貯水位運用を実施している。
- 今後は、公共施設の敷地内における雨水貯留施設の整備について検討を進める。



夏子ダム

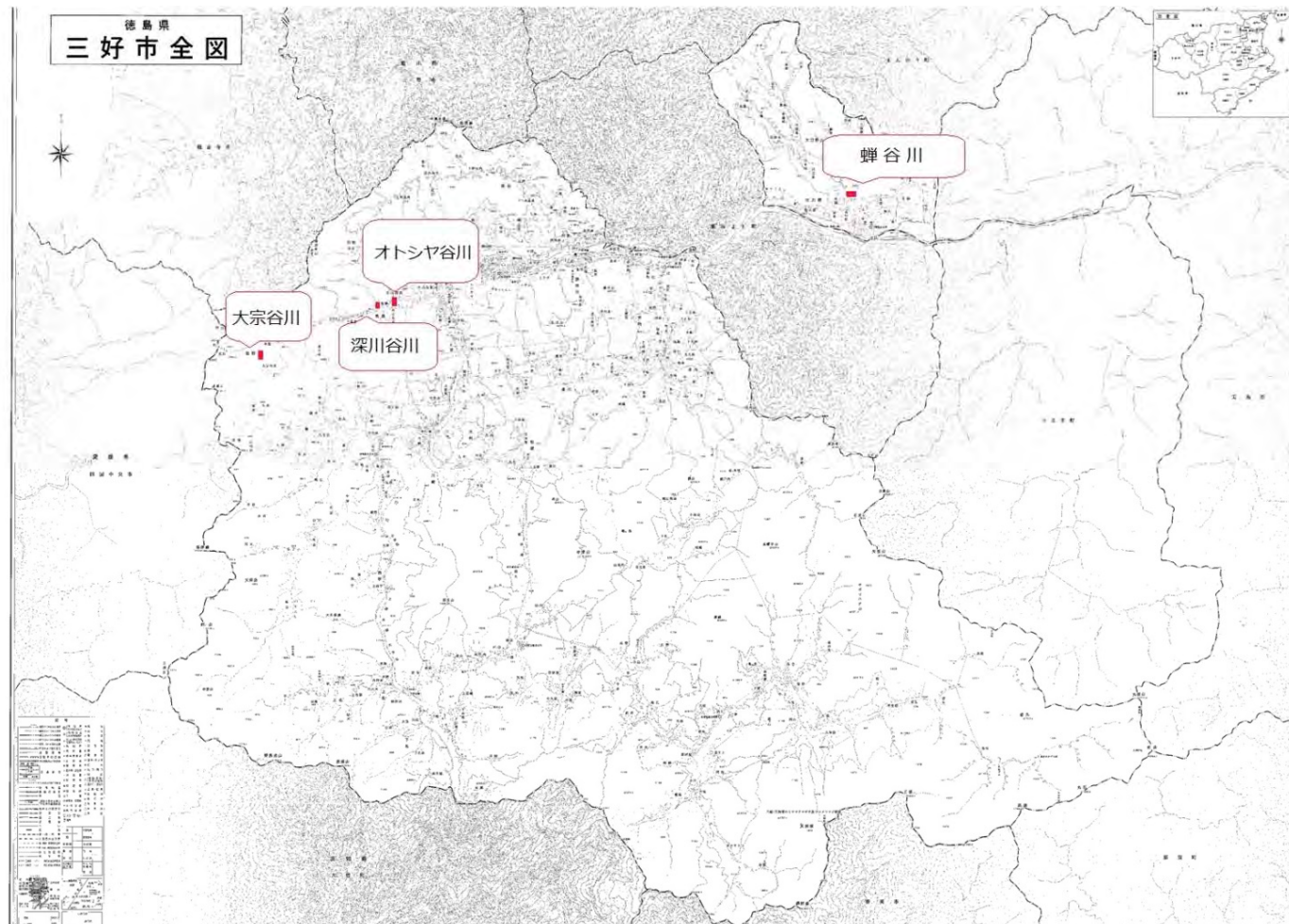


排水ポンプ車

三好市における取り組み

○三好市では、令和2年度から令和3年度に、緊急的な措置が必要な普通河川(4河川)で浚渫を行い、治水機能の保全を図っている。

○更に、老朽化した樋管のフラップゲート化についても検討していく予定。



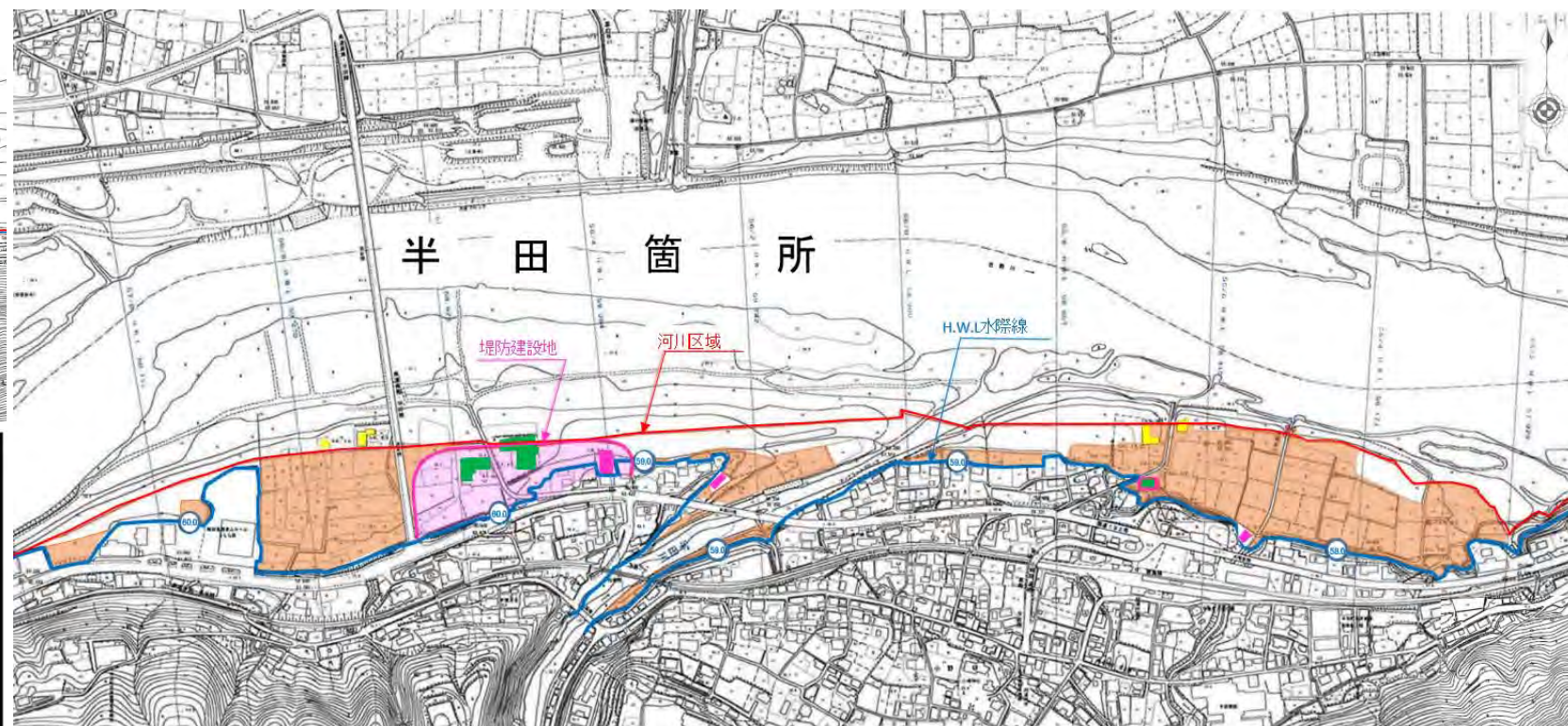
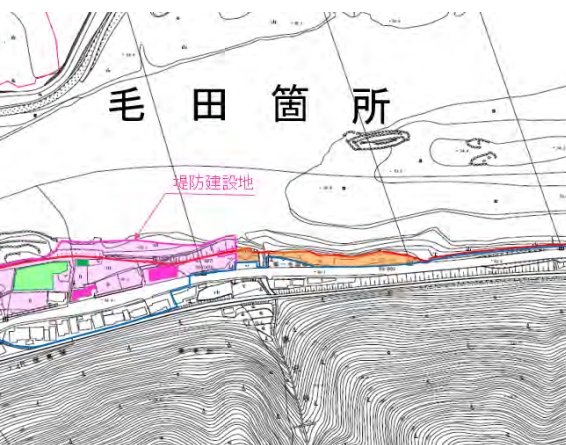
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

つるぎ町における取り組み

○つるぎ町では、国交省と連携して取組んでいる土地利用一体型堤防整備に併せて、つるぎ町河川氾濫災害危険区域に関する条例を4月1日より施行する。施行後に於いては、危険区域に対して建築制限をかけることにより、新たに生活を拠点とする人を制限し氾濫時の危険性をなくす。

○今後は、堤防事業の早期工事着手に向けて国交省との連携を強化する。また、河川氾濫災害危険区域内の既存住家を洪水から守るため、洪水氾濫域減災対策事業を活用し、家屋移転、止水壁の設置を計画している。



地権者80名 約98,000㎡(175筆) を指定

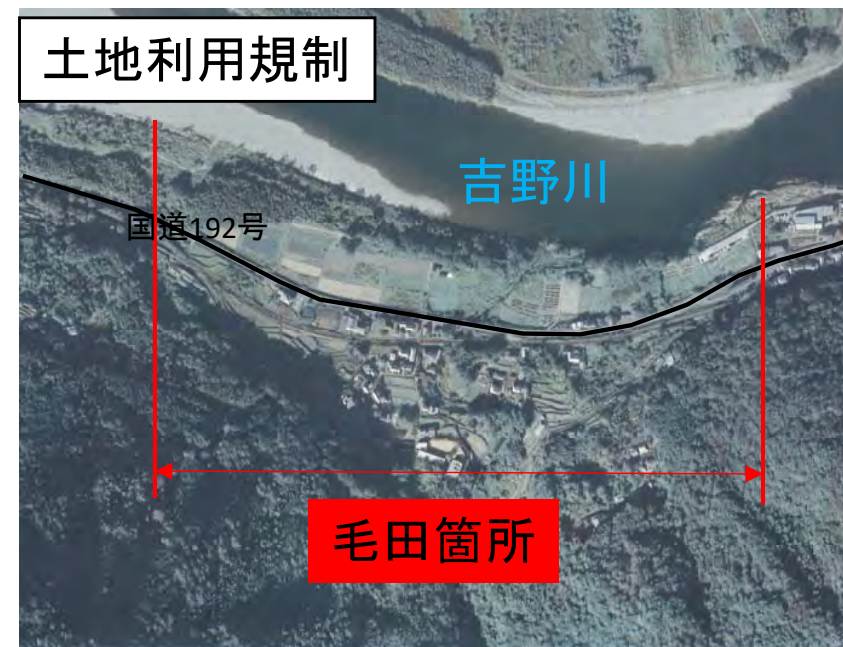
吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る治水対策～

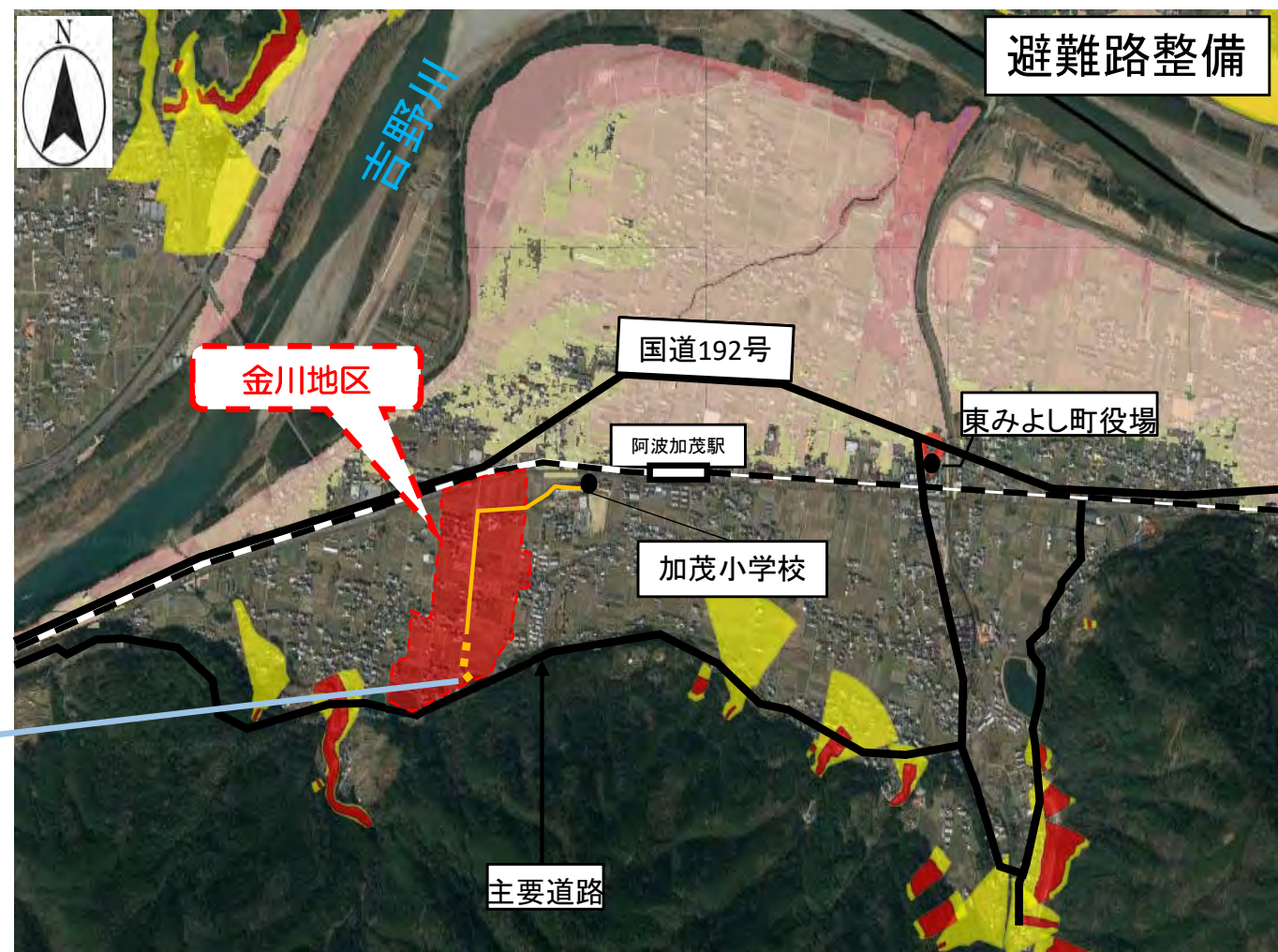
東みよし町における取り組み

○毛田箇所では国交省が堤防整備工事を行い、東みよし町が災害危険区域の指定を実施することを検討している。また金川地区では、降雨量の増大や水害の激甚化による水災害リスクの増大に備え、住民の人的被害をなくすため避難路の整備を行う。

土地利用規制

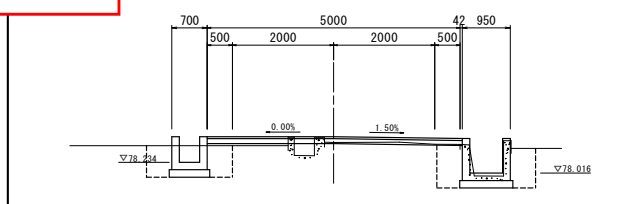


避難路整備



■地区公共施設(点線部分) 避難路拡幅 L=150m

完成イメージ(図面)



本山町における取り組み

本山町では、山林の間伐促進を行ない、山林の保水機能を高めている。

○本山町の約92%を占める山林の間伐を行なうことにより、雨水が一気に河川へ流出することを防ぐ。

間伐作業



間伐作業後の山林



大豊町における取り組み

○大豊町では、森林や農地等の荒廃による土砂災害等から被害を軽減させるために、公有林間伐の促進や小規模ほ場整備事業を実施してきた。

○今後は、引き続き森林や農地等の保全に努める。また、新たに、平成30年7月豪雨災害で被災を受けた立川川への支川に地滑りによる土砂や流木が大量に流れ込んでおり、堆積土砂や流木を撤去できていないため、計画的に撤去及び浚渫工事を実施する。

◆継続事業

○間伐促進事業

◆新規事業

○堆積土砂の浚渫

○小規模ほ場整備事業

○流木の撤去

吉野川水系流域治水プロジェクト【参考資料】

～日本一の暴れ川から命と資産を守る流域治水対策～

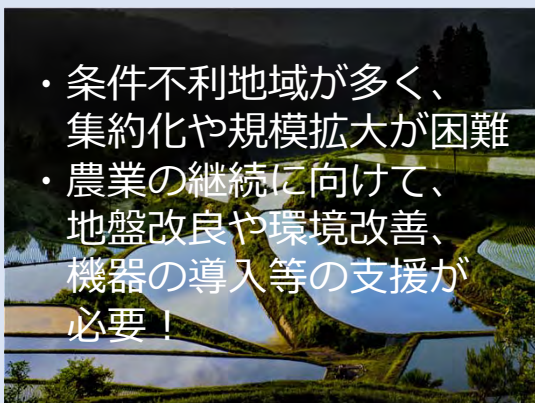


土佐町における取り組み

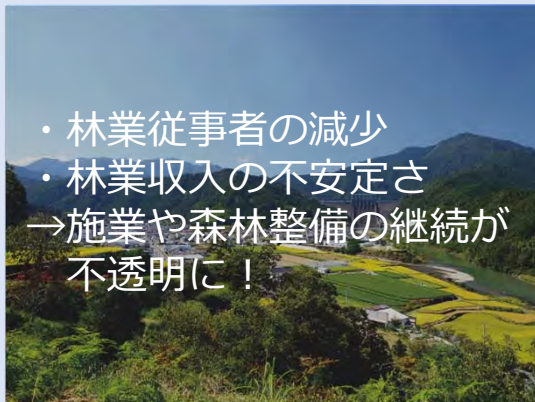
- 土佐町では過疎高齢化の進行に伴い、水源の保全及び涵養に資する第1次産業の維持存続が課題となっている。
- このことから、十分に整備されていない山林や、耕作放棄地が増加し、町内だけでなく下流域も含めた氾濫リスクが高まっている。
- 土佐町は2020年SDGs未来都市に選定。「環境」「経済」「社会」の自律的好循環を通じ、治水対策を実現していく。

現在の状況及び課題

水
田



山
林



伴って、河川氾濫リスクも増大！

対策

■実施概要

水田継続のための補助の拡充を実施（農地保全）

■活用する制度

中山間地域直接支払制度
多面的機能支払交付金
引き継げる農業支援事業

■実施概要

全伐・間伐の実施
（森林保全）

■活用する制度

緊急間伐総合支援事業補助金
森林環境譲与税

一次産業の経営を改善！

目指す姿

流域治水を通じ生命と資産を守る



社会、経済、環境の
自律的好循環の実現！

大川村における取り組み

大川村100年の森づくり事業

吉野川に水を育む山々を有する大川村では、健全な森林の育成と林産業の振興を図るため、100年後にも豊かな森が広がる村づくりを目指す長期的な取り組みを平成27年度から進めている。

この事業では、森林の持つ公益的、多面的機能を促進するために

- ★ 村有林を中心として地域にあった特色の有る施業を実施
- ★ 民有林との連携を密にし、生活に密接な関わりを持つ里山づくり
- ★ 災害等の起きない快適な環境が整備された森づくり

を目的に、

植生や地形的な条件で、村内を5つのブロックに分け、それぞれに応じたテーマにより森林整備を実施している。

①【自然に親しむ森】

自然環境に配慮した施業を推進

白滝の里を拠点に、森林保全を通しての吉野川上下流域間の交流拡大、観光の産業化と環境保全の啓発に繋げていく。

- ① 交流の森の整備
- ② 登山道の整備
- ③ どんぐり銀行大川村

※どんぐりを通貨とし、集めた数に応じてクヌギの苗木を払い戻し森林保全の啓発



②【林業経営の森】

循環型の森林経営が可能な森づくり

長期的持続的な森林経営を目指す循環型林業の取り組みを進める。

村森林組合に村有林保護育成を委託。皆伐、間伐、造林施業を実施。搬出材の収益で100年の森事業を経営

吉野川水系に水を育む重要な山林と河川を有する地域であり村内でも特に適切な森林管理を目指している。



③【水源涵養の森】

水源の涵養と生態系保全を推進

天然の広葉樹の植生が豊かなこの地域では、保水力に優れた広葉樹林とそこに住む生物の多様性を守り、景観と水源涵養機能両方をバランスよく維持することを目指した森づくりを目指している。

- ① 広葉樹の整備を推進
- ② 保水力の強化
- ③ 将来的には林道を利用した木材搬出を実施していく。

その他の取組

- ・ 放置木搬出補助：林内放置木のチップ化等のために搬出する経費に対し補助を行う。
- ・ ダム湖岸景観整備：山桜等の植樹をダム湖岸沿いに行い、景観を向上させる。
- ・ 上下流交流：NPO法人や関係機関との植樹等と交流を兼ねた森林整備を実施。
- ・ 治山治水事業：土砂災害の発生と再発が危惧される箇所等を国県に要望。

④【集約化の森】

村有林化と集約化により木材搬出を推進

森林施業の効率化と林地の荒廃を防ぐための民有林の村有林化と集約化を目指している。

村有林化した山林を中心に、周辺の民有林との集約化を進め、木材搬出事業を実施まで進めていくことで循環型の林業経営を進める。

⑤【長伐期施業の森】

長期委託により長期の保全を推進

保安林が多く、公益目的を重視した森づくりが求められるこの地域では、長期的な保全を目指す長伐期施業の森づくりを進めている。また、地形的に木材搬出が容易な勾配の低い傾斜地が多いため、村有林を通る林業専用道の開設を実施している。

- ① 長期委託地区を広げ集約化施業を進める。
- ② 村有化の推進で木材搬出面積を広げていく。

いの町における取り組み

- いの町では、源流域における森林の有する多面的機能の高度発揮に向け、再造林から主伐までのきめ細やかな支援を実施。
- 今後とも、国有林野事業との連携はもとより、森林環境譲与税を活用した新たな事業展開による森林整備を推進していく。

町独自の施策の展開

➤ 「吉野川」水源の森整備事業

水源涵養機能の高度発揮に向けた間伐への支援。森林所有者費用負担なし。
これまで840haの間伐実施(H15～R元)



保育間伐
施業地

✓ 森林環境譲与税は令和元年度
から譲与開始



➤ 森林整備緊急対策支援事業

森林が有する公益的機能の早期回復に向け、主に間伐、溪畔林の整備を支援。*森林環境譲与税活用事業



搬出間伐

➤ 森林(もり)づくり交付金事業

➤ 森林資源循環利用促進事業

持続的な森林経営を通じ、森林の多面的機能の高度発揮を図るため、再造林、下刈り、獣害防除、主伐への支援。

* 令和3年度からは森林環境譲与税を活用し事業内容の拡充を予

再造林65ha(H25～R元), 下刈り64ha(H27～R元),
獣害防止ネット15,390m(H28～R元), 主伐40ha(H28～R元)



再造林



獣害防止ネット(鹿ネット)

既存事業による取組と森林環境譲与税による取組の双方を推進することにより、一層の森林整備を進める。